

製品名: カテプシン E ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08017**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量 | 48kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | CTSE |
| 別名 | CTSE; Cathepsin E |
| 遺伝子 ID | 1510.0 |
| SwissProt ID | P14091 |
| 免疫原 | 抗血清はヒトカテプシン E 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 243-292 |

背景

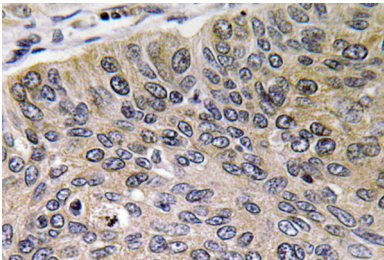
この遺伝子は A1 ファミリーのペプチダーゼの一種をコードしています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。これらのバリエーションのうち少なくとも 1 つは、タンパク質分解によって成熟酵素が生成されるプレプロタン

パク質をコードしています。アスパラギン酸エンドペプチダーゼであるこの酵素は、抗原処理および分泌タンパク質の成熟に関与している可能性があります。この遺伝子の発現亢進は神経変性疾患において観察されています。[RefSeq 提供、2015年11月],触媒活性: カテプシン D に類似していますが、特異性はわずかに広いです。機能: 免疫機能に関与している可能性があります。MHC クラス II を介した抗原提示における抗原ペプチドの処理に関与していると考えられます。胸腺における活性化誘導性リンパ球減少、および脳における神経変性とグリア細胞の活性化に関与している可能性があります。PTM: グリコシル化されています。糖鎖の性質は細胞の種類によって異なります。線維芽細胞において、プロ酵素は高マンノース型オリゴ糖を含み、成熟酵素は複合型オリゴ糖を含む。赤血球膜において、プロ酵素と成熟酵素の両方が複合型オリゴ糖を含む。PTM: 自己触媒的切断によって2つの形態が生成され、形態 I はイソロイシン 54 番残基から、形態 II はスレオニン 57 番残基から始まる。類似性: ペプチダーゼ A1 ファミリーに属する。細胞内局在: プロ酵素は小胞体とゴルジ体、成熟酵素はエンドソームに局在する。サブユニット: ホモ二量体; ジスルフィド結合。組織特異性: 胃、肺クララ細胞、活性化 B リンパ球に豊富に発現し、リンパ節、皮膚、脾臓にも低レベルで発現する。休止期 B リンパ球には発現しない。

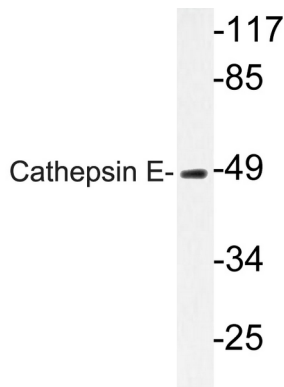
研究分野

リソソーム;

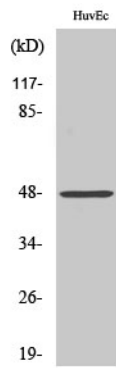
画像データ



パラフィン包埋ヒト肺癌組織におけるカテプシン E 抗体の免疫組織化学分析。



カテプシン E 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解液のウェスタン ブロット分析。



カテプシン E ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析